

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900416		
法人名	医療法人 俊生会		
事業所名	認知症高齢者グループホームこすもす		
所在地	宮崎県東諸県郡国富町本庄12146-3		
自己評価作成日	平成26年11月11日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouoCd=4571900416-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護される側と介護する側がしっかりと絆で結ばれている」そして、決まり事を作ることなく、利用者様がそれぞれのペースで、やりがいや生きがいを感じながら、毎日笑顔で安心して過ごせるような環境作りに職員一同取り組んでいます。以前は外出支援について課題が多くありましたが、最近は帰宅支援や希望のあった場所、季節に合った鑑賞など、外出の機会も増えてきている。利用者様と一緒に食事の献立を考えたり、一人ひとりの趣味や生活歴を活かして、調理・洗濯・散歩・買い物や野菜・花の栽培など、利用者様に教えてもらいながら、共に作業を行っています。職員間の団結力も強く、若い職員が多いので、持ち味の明るい雰囲気でも利用者様と毎日楽しく過ごしており、ご家族の面会も多い為、家族との信頼関係の構築にも力を入れています。また、地区の清掃活動や訓練等に参加するなど、地域との繋がりがりや関係の構築にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は、利用者にも分かりやすい言葉を使い、全職員で作成し、お互いに確認し合いながら、笑顔で実践に努めている。以前に比べて、利用者一人ひとりの状況に合わせて外出支援に取り組んでおり、職員間のチームワークも図られている。近隣から手作りの作品を利用者に頂いたり、季節の花を届けてもらったりと交流ができています。他のグループホームの取組からヒントを得て、自分のホームへ生かしていくなど、職員はより良いケアの改善に積極的に取り組んでいる。利用者が分かりやすいように、その日の勤務者の名前を壁に掲示するなど、利用者目線での取組が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えることで、唱えている理念に対して責任を持つことが出来る。また、玄関に設置することで、ご家族や利用者の方にも掲げている理念が伝わりやすいようにしている。	全職員で作りあげた理念は、利用者や家族にも分かりやすい言葉で表現し、玄関や共同生活室に掲げている。職員間で声を掛け合いながら、理念の実践を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、清掃活動や運動教室に参加している。施設内の行事には地域のボランティアをお願いし、2ヶ月に1回、地区の美容師の方に来てもらうなど、地域の方と交流する機会を設けている。	自治会の行事には、職員が勤務内で出席し、地域で開催される運動教室には利用者と共に参加している。近隣の方から季節の花や作品などの届け物がある。地域に出向き、寸劇等で認知症に対する理解を深める活動も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が出掛ける際には利用者に声を掛け、一緒に出掛けることで、地域の方たちと自然な形で会話や関わりができ、支援の方法が学べるのではと考え、実践に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの生活の報告、今後の取組やご家族からの相談、訓練の報告等を行っている。会議でのご家族・利用者様からの意見を、今後の改善点につなげ、サービスの向上に努めている。	年間5回の運営推進会議がホームの行事に合わせて設定しており、家族が参加し意見を言いやすい状況を作っている。1回は他のグループホームと合同で、食事をしながら意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や問題点などは、市町村と連絡を取り、運営推進会議終了後にも相談にのってもらい、アドバイスをもらうなど、信頼関係の構築に努めている。	役場の担当者とは気軽に話せる関係ができしており、頻回に連絡を取り、アドバイスをもらい、ホームの運営に生かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言をし、施設内に掲示している。身体拘束に関する研修会を行うことで知識を習得し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行い、職員同士がお互いに声を掛けあい、実践に努めている。認知症の研修には多くの職員が参加しており、その内容を他の職員にも伝えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、高齢者虐待についての知識を深め、防止につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の知識・理解を深めるために、研修の機会を設け、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定などがあった際には、家族あてに文書を発行し、説明を行っている。また、日頃から意見や要望等が言いやすいような雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「苦情処理ポスト」を設置し、気軽に利用できるようにしている。また、家族の来苑時には声を掛け、意見・要望等を表しやすい関係を築けるよう心掛けている。	家族の意見や要望が細やかに記録され、改善や実践につなげている。家族の来訪も多く、その時に意見を聞くようにしており、意見を出しやすい雰囲気作りにも心がけている。しかし、家族間で話し合う機会や家族間から出た意見を運営に反映できるような取組には至っていない。	家族間で意見が出しやすい雰囲気を作るためのアイデアや場の設定等、検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月々のミーティングでは、意見が出やすいよう、日頃から職員間のコミュニケーションを大切にしている。	代表者がホームを訪れることも多く、利用者や職員とのコミュニケーションが図られている。その際に、職員から代表者へ意見や提案が行われており、運営に生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員と話す機会を設け、個人の勤務状況や努力・実績などを把握することが出来る。それを踏まえ、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内・外の研修の積極的な参加に努めている。また、研修に参加した職員は、後日の送り時に報告するようにし、職員全体のケア力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内・外の研修会やネットワーク作りに参加し、サービスの質の向上に努めている。また、後日、職員の他施設見学・訪問等を計画している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりの状態に合わせ、どのような事がしたいのか、また、不安に感じていることはないかという意見に耳を傾け、安心して過ごす事が出来る関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対して、困っている事や要望などをサービス導入時にはもちろん、毎月伺うようにしている。それによって信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には、今まで関わってきた方々と話をし、必要な支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調に合わせて、掃除や洗濯・調理などを一緒に行っている。利用者の方と献立をたて、調理し、一緒に食べながら話をすることで、意見を聞くことができ、それを反映させるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等では、ご家族や利用者の方に準備を手伝ってもらっている。また、日頃使用する事の多い古新聞紙などを提供してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や散歩、自宅に帰ったりと、本人の体調や希望に合わせて行っている。訪問があった際には、再度来てもらえるよう声を掛け、ご家族の来苑時には利用者の希望を伝えている。	管理者や職員は、外出時の利用者の表情や変化を大切にしている。ボランティアや地域の老人クラブとのつながりを大切にしており、来訪時には再度、来てもらえるように声掛けを行い実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の利用者同士の関係を把握し、座席を検討する。また、職員が仲介に入るようにし、利用者同士の良い関係が築けるよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族が差し入れ等を持って来苑して下さい。その際にも、また来てもらえるよう声を掛けたり、行事に招待するなど、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような生活を望んでいるかをお聞きし、把握に努める。身近な事では嗜好を取り入れ、食事の献立を考え、職員と一緒に作り、希望に沿うようにしている。意向が聞き取れない利用者の方には家族に意向を聴いたり、職員間で話し合い、意向をくみ取る。	職員は、意向が聞き取りにくい利用者に対しても、先入観を持たずに必ず声を掛けるよう努力している。他のサービスの利用を望む利用者にも、本人の意向を大切にして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、親しい方から生活歴を聴き、アセスメントを行う。昔のアルバムや馴染みの物を提供してもらい、環境作りも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当介護職員を中心に個々の状態把握に努め、日々の記録やミーティング等で評価を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族より、より良く暮らす為の課題とケアのあり方について意見を聞き、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	主と副の担当制をとり、そこからの情報や家族の意見を介護計画に生かしている。職員が、介護計画が実践されているかどうか、簡単にチェックできる評価表を作成し、チームとして介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別ケア記録を付け、実践・結果・気づきや工夫など、職員間で情報を共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に一回のモニタリングやその他面会時に、ご家族から希望をお聞きするようしており、必要に応じて施設サービス以外のサービスも活用しながら、柔軟な対応、サービスの向上に努めている。		

宮崎県国富町 認知症高齢者グループホームこすもす

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、地域との繋がりを大切にし、開かれた施設で、自分の慣れ親しんだ地域で暮らしていると実感が持てるよう取り組んでいる。また、地域のボランティアの力も借りて、地域の方と交流が図れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にして、かかりつけ医と事業所の関係を作りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	基本的にはかかりつけ医の往診がある。他の病院受診は家族にお願いしている。歯科についても往診がある。往診や受診の情報は、翌日の朝の申し送りで伝え、職員間の情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中で、気付きや体調の異変などの情報を訪問看護師に伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに情報提供を行い、スムーズに安心して治療を受けられるよう支援している。また、普段から医療関係者とのより良い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方、看取りについて、本人・ご家族と話し合い、主治医を含めたチームケアで取り組みを行う。また、90歳以上の高齢の方が多く、日頃から職員間で話し合いを行っている。	契約時に重度化した場合や看取りについて家族に話をしている。看取り指針や同意書も整備され、状況に応じて説明をしている。重度化した場合は、痰の吸引等、利用者に沿った勉強会を行っている。看取りの時期には、職員同士で自主的に宿直等を行い、協力しあっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、実践力を身につけている。また、施設内でも定期的に研修を行い、応急手当の方法を学び、マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、全職員が同じような対処が出来るようにしている。また、近隣の方や利用者の家族に、非常時に駆けつけてもらえるよう、防災管理委員会を中心に行っている。	火事や地震を想定して、年3回の訓練を行っている。訓練には地域の消防団や住民の協力がある。水や食料品等の備蓄もしている。自動通報では、地区長宅にも自動的に連絡がいくようになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する勉強会を行い、月々のミーティングでは言葉遣いや利用者の方の人格を尊重した対応が出来るよう、話し合う機会を設けている。	プライバシーについて、毎日のミーティングで職員同士が確認し合っている。外部研修を受ける機会も多く、職員がその研修でも確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日頃の作業や共に食事を摂るなど、利用者の希望や思いが表しやすいよう、スキンシップや寄り添うケアを実践し、信頼関係を築いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりを作ることなく、その日の状態を踏まえながら声を掛け、利用者本人の希望を大切に、その人らしい暮らしを送ることが出来るよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、近隣のボランティアの方に来て頂き、本人の希望に合わせて散髪をしてもらっている。髪を染めたり、行事や希望のあった場合には化粧をするなど、お洒落を楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を利用者と一緒に考え、作り方を教えてもらいながら一緒に作り、一緒に頂く。目の前で作ることで食事の楽しみが増え、利用者同士の会話も増えている。	母体の病院が食材を準備し、ホームで調理している。利用者に自分の食べたい量のご飯を自分でついでもらう取組を行っている。日曜日は職員と一緒に料理を行っている。おやつは、日頃から皆で作る工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体となる病院の献立を基に、バランスを考えた献立になっている。食事量や水分摂取量などの記録を取り、反映させるようにし、個人に合わせ形状も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれの状態に応じ、口腔ケア用スポンジを使うなど、食後のうがいや歯磨きを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間の歩行が困難な方にはポータブルトイレを使用してもらい、失敗の頻繁な方には誘導を行うなどして、自立に向けた支援を行っている。	排せつ表を確認しながらトイレに誘導している。おむつ使用で入居された場合でも、できるだけ誘導を行い、紙パンツへ移行するまでに改善が図れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、個人の排泄パターンを理解・把握し、飲食物や水分量などを工夫している。また、母体の病院と連絡をとり、アドバイスももらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決めず、利用者一人ひとりの希望や状態に合わせた入浴の介助を行っている。	週2回の入浴を行っている。入浴日や時間を決めず、利用者の希望に合わせるようにしている。眠れないと言われる利用者には、夜の足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体力や睡眠状態に合わせて休息してもらい、健康で穏やかに過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれの記録に現在使用している薬の一覧をはさみ、目的や副作用がいつでも確認出来るようにし、注意している。また、誤薬が無いよう職員2名で確認し、気になる点は主治医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を参考にし、出来るだけ利用者の方が喜び、笑顔の絶えない毎日になるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、買い物や帰宅支援を行っている。また、要望に合わせた場所へのドライブやお茶会も行っている。車椅子の利用者も、家族の協力を頂き、外出したり、近隣の散歩等に出掛けている。	日常的には、天気に合わせて中庭でのお茶会を行っている。また、個人の要望に合わせた帰宅支援を行っている。利用者から「次は〇〇に行きたい」という希望も出るようになり、外に出ることで会話が aumentando。職員も一緒に楽しむ取組となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは希望が無い限り金庫で管理しているが、買い物に行く際には利用者に財布を渡し、管理をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方におり、長く来られない場合には、利用者と相談し、希望に応じて電話で話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは植木などが見え、洗濯をしながら見える景色や駐車場の花、また、室内には季節に合わせた装飾品を置くなどして、四季を感じれるよう工夫している。夜間は白熱灯の灯りで落ち着けるようにしている。	ホームの共用空間には敷きこみ式の畳があり、洗濯物をたたんだりする場として活用している。正面の壁には大きな田の神様の絵が飾られ、くつろぎの空間になっている。テレビも利用者の好みに合わせて調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全個室で、一人で過ごす事が出来る。また、要望があれば、夫婦で過ごす事の出来る部屋も確保されている。談話室は畳でこたつがあり、気の合った利用者同士で過ごす事が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具は自由に持ち込んでもらい、利用者本人が落ち着いた環境で過ごせるよう配慮している。また、ご家族が持ってきてくださった思い出の写真を飾るなどして工夫している。	使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれている。敷きこみ式の畳は利用者にあわせて利用されている。意思確認の困難な利用者も、アルバム等の持ち込みに反応されたり、ベッドの配置を皆がいる共用空間が見えるようにするなどの工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所には場所が分かるように張り紙がしてあり、お茶はいつでも飲むことが出来るように急須をテーブルに準備している。利用者同士声を掛けあったり、注ぎ合ったりすることでコミュニケーションにもなっている。		